



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>

平成19年 1 月

事 務 局 〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-21-1
 国立国際医療センター臨床検査部内
 発 行 者 三浦隆雄
 編集委員 吉田和浩・竹田信邦・立川康則
 印 刷 所 東洋印刷株式会社
 ☎ 03-3352-7443

謹 賀 新 年

平成19年 元旦

国立病院臨床検査技師協会関信支部
 支部長 三 浦 隆 雄
 理 事 一 同

目 次

- ◆ 新年の挨拶..... 2
 三浦隆雄（国立病院臨床検査技師協会関東信越支部長）
 奥田 勲（独立行政法人国立病院機構関東信越ブロック事務所統括部医療課臨床検査専門職）
- ◆ 新年を迎えて（地区会会長、副会長挨拶）..... 3, 4, 5
 笹村 強（茨城）・田島紹吉（栃木）・大野 清（群馬）・小泉良一（神奈川）
 中島 治（新潟）・若林洋志（長野）・内野厳治（山梨）・上原信夫（東京、埼玉・技師長会）
- ◆ 新年の抱負..... 6, 7
 麻生 透（NHO栃木病院）・小坂橋 歩（NHO西群馬病院）
 鳥海 洋（NHO千葉医療センター）・竹内 豊（NHO相模原病院）
 渡辺 靖（NHO西新潟病院）・土井誠一（NHO松本病院）
 吉田龍矢（NHO甲府病院）・蓮尾茂幸（国立がんセンター中央病院）
- ◆ 細胞検査士資格認定試験対策セミナーに参加して..... 8
- ◆ 臨床検査技師長協議会関東信越支部より 会長 杉村有司（NHO千葉東病院）..... 9
 臨床検査科長会より 会長 倉持 茂（NHO東京医療センター）
- ◆ 医療観察法病棟について 塩澤勇治（NHO久里浜アルコール症センター）..... 10
 コラム 専門職のひとりごと「関信支部学会について」奥田 勲
 事務局からのお知らせ
- ◆ 超音波検査資格認定試験対策セミナー、糖尿病療養指導士・治験コーディネーターセミナー、
 症例検討会症例の公募のおしらせ、編集後記、人事異動 11
- ◆ 地区会だより 新潟地区、長野地区 12



国立病院臨床検査技師協会
関東信越支部
支部長 三浦 隆雄

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は皆様のご支援ご協力によりまして支部活動を遂行することができ

ましたこと、関信支部役員を代表しまして厚くお礼申し上げます。

会員各施設におかれましては、今年も種々様々な課題を抱えていることと思われます。また、我々の属する組織と臨床検査部門を取り巻く状況は、相変わらず先行きへの不安を抱かせる要因が山積しております。病院機構の在り方の見直し、施設の追加的統合廃止、非公務員型への転換、国立高度医療施設の非公務員型独法化、等々です。どのような状況にあっても、臨床検査業務を通して良質な医療を提供することが我々の使命であります。これまでの業務を謙虚に振り返り、チーム医療の一員として施設内での存在感を着実に高めていきたいものです。各自がスキルアップし、当たり前のことを当たり前に、それぞれの立場で責任を果たすことが大切と心新たにしております。

最大の関心事は、やはりなんといっても人事・仕事・収入ででしょうか。これから団塊世代の先輩諸氏の退職期を向かえることとなり、人事に関しては各自の力量がより問われることになりそうな気がします。仕事については、心を亡くす状態、「忙しい」を何とか解消し、新しいことを学んだり失敗を振り返る余裕を持ちたいものです。収入増は残念ながらほとんど期待できそうにありませんが、努力次第では大いに精神的な報酬が得られそうです。満足感・達成感です。努力に見合うだけのことは必ずあると信じたいものです。

関信支部活動におきましては、職能団体として臨床検査部門の質的向上と活性化、学術と倫理の向上を図るために、臨床検査専門職、国臨協本部、技師長協議会、地区会等との意見交換や連携交流をより一層深め、共通の課題に向けてモチベーションを高めていく必要があると思っています。これは言葉だけではなく、実効あるものにしていかねばならないと考えます。また、人や情報に接して学ぶ機会や交流できる場を多く設けられるように計画してまいります。とくに、今年の関信支部学会ではこれまで以上に多数の会員が集う会となるように趣向を凝らしてみたいと考えております。

会員の皆様には、今年も関信支部活動にご支援・ご協力・ご意見をお願い申し上げますとともに、この一年のご活躍とご多幸を祈念しまして年頭の挨拶といたします。



独立行政法人国立病院機構
関東信越ブロック事務所 統括部
臨床検査専門職 奥田 勲

新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、現在単身赴任や長距離通勤を余儀なくされている方々、日頃よりさまざまご尽力いただいている各施設の検査技師長をはじめ検査科（部）スタッフの

皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

国立病院機構もこの4月からは4年目を迎えることとなり、現在職員一丸となって目標（1. 経営基盤の確立、2. 医療の質の向上、3. 医療安全の推進）達成に向けて鋭意取り組んでいるところです。また、国立高度専門医療センター（いわゆるナショナルセンター）につきましても、平成22年度を目途に独立行政法人化が決定されたことは皆様ご承知のとおりです。国立医療の在り方が根本から問われる時代であり、われわれ国立医療を担う者にとっては胸突き八丁、まさに正念場を迎えたといわざるを得ません。

このように、昨年1年間はわれわれ院内臨床検査部門としても厳しい状況下ではありましたが、その一方で皆様とともにさまざまな取り組みも行って参りました。一例をあげますと、①腹部超音波1ヶ月実技研修：がんセンター中央病院にて実施、②17年10月より全国一斉に「流行性ウイルス感染情報」提供開始：18年10月から国臨協本部に委託、③新人教育研修：関信支部との連携により実施、④検査専門職による全国共通臨床検査統計フォーマットの策定（近々各施設での使用が可能となる予定）、等々であります。

さらに本年は、関信支部との連携を一層深めながら、以下の課題等に前向きに取り組んで参りたいと思います。

1. スキルアップ研修制度の充実
 - ①腹部超音波研修の継続実施（研修内容の見直し含め）
 - ②循環器超音波研修の実施（国立循環器病センター）
 - ③機構本部示達による輸血（講義・実技）研修の実施
 - ④関信ブロック主催で新たなスキルアップ研修（例：検査部門におけるリーダーシップ研修や医療安全研修等）の実施
 2. 検査部門による医療情報発信への取り組み
 - ①「流行性ウイルス感染情報」発信について、ブロック検査専門職としての国臨協本部への継続的サポート
 - ②関信ブロック事務所ホームページ（<http://www.hosp.go.jp/~kansin/main.html>）への「流行性ウイルス感染動向全国マップ」情報掲示の継続
 - ③関信ブロック医療課の事業として、検査部門と薬剤部門（関信ブロック34病院）の連携（協働）による「新たな耐性菌情報」提供の開始
 3. 今後の医療連携の在り方
 - ①従来の検査専門職会議に加え、昨年より開始した医療技術職6職種（薬剤師・検査技師・放射線技師・栄養士・リハビリ・療育）による全国合同専門職会議を継続し、職域間連携（相互理解・相互協力）を一層深める
 - ②新人教育研修会については正式な関信ブロック研修と位置づけ、医療技術職6職種合同での開催とする
- 紙面の関係でこの程度にとどめますが、年頭にあたり関信ブロック検査専門職としての私見を述べました。是非とも皆様の忌憚のないご意見や要望等をお聞かせ下さい。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

勤務日：水曜日以外
西埼玉中央病院研究検査科
TEL：042(948)1111（内線）8620
E-mail：okudai@wsh.hosp.go.jp
勤務日：毎週水曜日
関東信越ブロック事務所 統括部医療課
TEL：03(5712)3106（内線）260
E-mail：okuda-isao@nho.hosp.go.jp

新 年 を 迎 え て

§ 茨城地区会会長 …………… 笹 村 強 一

関信支部会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

茨城地区会は、昨年5月の総会で26周年を迎えました。また、3施設とも技師長が変わり地区会役員も一新されました。

昨年の地区会行事としては、5月に総会と外部講師を招いての講演会、9月には関信支部学会の地区会コーナーに各施設の紹介と活動報告、11月には親睦を深めたレクリエーションと忘年会を開催し施設間の枠を超えた親睦が計られた。今年も昨年同様に3施設で学術と親睦を深めていきたいと思っています。

霞ヶ浦医療センターの生理部門では、岩下副技師長（現・埼玉病院）が主となり、週2回腹部超音波検査のビデオを閲覧しながら心電図室に於いて、医師を交えて約2時間ディスカッションを行っている。参加者の中には超音波検査に携わっていない人もいるが、半年以上たつと腹部超音波所見をある程度読影が可能となります。

病理検査室では、細胞診認定資格の習得と診断精度向上を目的として、5時以降の勉強会、月2回の割合で臨床医および細胞診指導医と共に行うカンファレンス、水戸医療センターまで出向いて夜中までの勉強会と現在は資格習得に向け特訓中であります。

最後に茨城地区を代表して、関信支部役員並びに会員の皆様の、益々の発展と一人でも多くの技師が認定資格を習得して専門職と言える技師に育つことをお祈りしています。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

§ 栃木地区会会長 …………… 田 島 紹 吉

新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては清らかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、日頃より関信支部役員の皆様には、当地区会に対しましてご指導を賜り感謝致しております。

さて、昨年は4月に診療報酬の改定があり、具体的な診療点数の設定にあたっては基本的な医療政策の方向性に沿って設定されたとされていますが、大方の予想どおり大幅に診療点数が下方修正され各施設でも対応に苦慮されたと思われます。また、臨床検査部門では全般的に「厳しい状況下」と言われて久しいですが、生化学の一番の稼ぎどころの包括10項目で10点の減算となっています。

しかし、視点を変えれば輸血管理料の施設基準に臨床検査技師が明記され、褥瘡ハイリスク患者ケア加算では細菌検査データの提供、栄養管理実施加算では生化学検査データの提供など、チーム医療として役割が課せられています。

今後の実績作りにより検査科に真の評価が得られると思います。

さて、栃木地区会では昨年「NHO宇都宮病院における抗酸菌検査の現状」「ハンズオンによる腹部及び心臓超音波実習」と題して2回の勉強会を開催いたしました。2施設の地区会ではありますが、幸い施設が近いこともあり何かと連絡を取り合っております。今後も、関信支部のご指導を仰ぎながら密な活動を進めたいと考えております。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

§ 群馬地区会会長 …………… 大 野 清

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には良き新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年も国内外でいろいろな出来事や話題があり、「皇室に41年ぶり男児誕生」や「北朝鮮核実験実施」等が印象に残りました。

保険点数も改正され検査部門は約10%前後の収入減が予想されます。各施設も影響を少しでも減らすために内部努力されていると思いますが、毎回、実施料が引き下げられて今後の検査科のあり方について、「根本的な見直し」が叫ばれる時がくると思います。経営に貢献できる検査科にするためには、「民間の経営手法」等も取り入れたマネジメント能力が求められています。

また、職員の業績評価も具体的に検討され、「コンピテンシー」や「バランス・スコアカード」等が導入され、昇給や昇格に反映されて個々の能力も問われてくると思います。

日本国内では「格差社会」がクローズアップされていますが、さまざまな統計や調査をみると、格差の広がりを見ずデータが目につきます。最新の「ジニ係数」は、0.4983と過去最大になっています。医療分野でも格差が広がり「働きたい」にも関わる事態になることも予想されます。

ある雑誌に人間の能力発揮と心の関係で明らかになったのが「フロー理論」で、「遊び心をもつこと」は「ゆとりの心でもある」と書かれていました。「遊びの上手な人間は仕事もできる」。仕事をより充実させるためには「遊び心」を持つ余裕もほしいところです。

最後に「何かやろうか、やるまいか、迷った時はやる」と何事にも「チャレンジ精神」で、充実した一年に成りますようにお祈りいたしまして、新年の挨拶といたします。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

§ 神奈川地区会会長 …………… 小 泉 良 一

新年明けましておめでとうございます。

平成16年4月1日より、全国154の国立病院、療養所が独立行政法人国立病院機構となりました。また今年からは、いわゆる団塊の世代の多くの人が退職されるという状況にあります。そんな中で、今まで通りそれ以上に、患者様により安全な良質な医療をご提供する為には、皆様の一層のガンバリをお願いする状況にあります。

採血待ち時間の短縮、生理検査待ち日数の改善、検査に関する苦情をしっかりと把握して関連職員への対応、インシデント・アクシデント報告書の情報の共有化、また、各種学会認定資格の取得、学会研修会等への積極的な参加を図り、検査科皆様の技術の向上を一層おし進めなければなりません。何しろ検査データは、病気で苦しんでおられる患者様そのもののものです。一日でも早いご回復、笑顔が見られるのを夢みて、益々自己研鑽を積んでいきたいものです。

今年度は、支部の会長さん副会長さんも変わられ、会員の皆様が参加しやすいような研修会、支部学会等色々工夫しておられます。どうぞ一層のご協力宜しくお願い致します。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

§ 新潟地区会会長 …………… 中 島 治

新年明けましておめでとうございます。

新潟県地区を代表して関信支部会員の皆様に新春の御祝詞を申し上げます。

雪国新潟は昨年大雪の中のお正月でしたが、今冬はやや少ないとの予報もあり穏やかな新年であってほしいと思います。

さて昨年の新潟県地区はお陰をもちまして、支部学会での特別優秀賞の2年連続受賞と2施設同時受賞、国病総合医学会でのベストポスター賞の受賞と、まさに快挙ともいえる成果を挙げることができました。これは関信支部会員の皆様のご支援があってこそと深謝申し上げるとともに、地区会員各位の日ごろの研鑽と努力に敬意を表するものがあります。今後も更なる評価を受けられるよう地区会として会員の支えになれるような活動を目指していききたいと考えています。

県内3施設はいずれも特徴ある医療を行っていますが、昨今の医療環境の変化により施設経営が大変困難な状況となっており、臨床検査部門の対応も厳しいものとなっています。上に立つ者はもちろんですが、やはりスタッフ皆が同じ認識の下に一致団結して、検査室の塀の中に留まらず、いつも施設全体の中で検査部門が果たすべき役割を模索し実行に移すよう、常にアグレッシブに活動しなければならないと思います。

今年1年が皆様にとって、また臨床検査部門にとってより良い年であることを祈念して止みません。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

§ 長野地区会会長 …………… 若 林 洋 志

新年明けましておめでとうございます。関信地区会員の皆様には新たな年を迎え謹んでお慶び申し上げます。

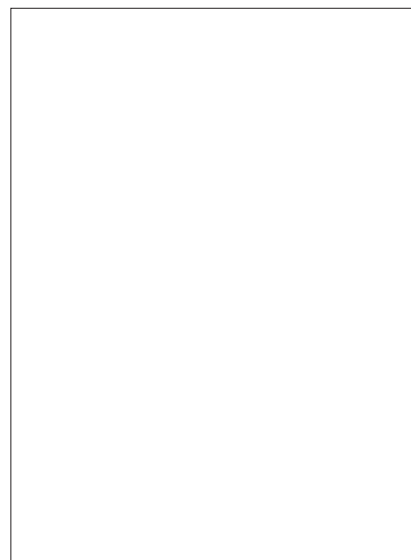
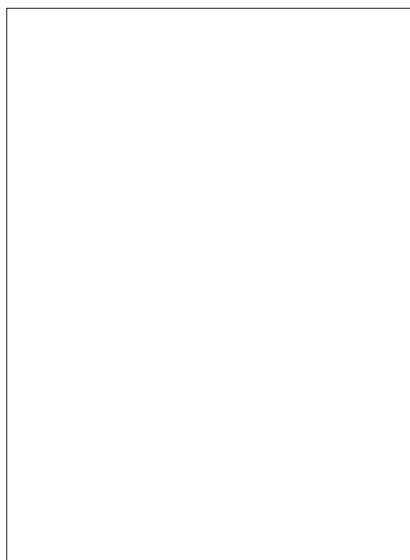
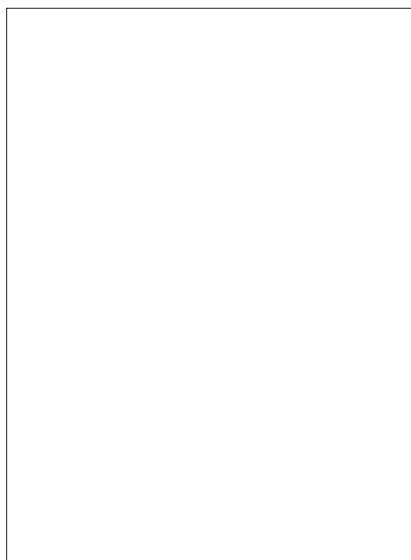
長野地区会は平成18年10月の総会において役員改正が行われ、11月に第1回理事会を開き、本年度の事業計画を決定し、新たなスタートを切りました。

今年は独法に移行して3年目を迎えます。検査科運営や資格取得等の技術向上、看護、薬剤等の他部門との連携等、今までに取り組んできたこれらの問題点を整理し、さらに発展させていく年ではないかと思っています。

地区会に於いてもこれらの取り組みや各施設との情報交換等を中心に関信支部と連携して活動したいと思います。またここ数年、会員の入れ替わりも多くなりました。会員同士のコミュニケーションが図れるような活動も重要だと考えています。

昨シーズン、長野市は例年に比べ積雪が多く、前任地である松本市は積雪もほとんどありませんでした。距離はわずか50km位しか離れていませんが長野県内の気象は地域によって大きく違います。しかし施設から望む雪を頂いたアルプス（松本）や戸隠（長野）の山々はどちらも雄大で美しいです。

昨年も自然災害や殺人事件、教育問題等暗い話題が多い1年でしたが、今年は明るい話題が多くあります事を願うとともに関信支部の発展を祈念して新年の挨拶とします。



§ 山梨地区会副会長 …………… 内 野 徹 治

新年明けましておめでとうございます。

時の流れは老若男女、望むと望まざるとに関わらず万人にやってきました。

「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也」松尾芭蕉 46才 東京深川より東北 平泉 酒田を経て大垣まで600里（現在の2400km）約150日の「奥の細道」の冒頭の一節です。

俳聖芭蕉は五・七・五の句に出逢い・発見を織り込み、時の流れを友として情緒あふれる名句を後世に数多く残しました。

あれから300年、内においては、いじめによる自殺、親殺し子殺し、後の断たない飲酒運転による悲惨な死亡事故が社会問題となり、モラル（道徳）の在り方が問われ、外においては一向に解決の糸口の見えない中東問題、専守防衛の見直しを迫られている核問題などなど

また 医療においては、医師・看護師不足による医療の地域格差、飽食の時代を背景にした、メタボリックシンドロームの増加による医療費の更なる高騰が懸念されています。

この様な現状の中、独立行政法人 国立病院機構も発足より3年が経過し、経営改善・業務改善の甲斐あって平成17年度決算は3億円の黒字でした。しかし平成16年度繰り越し欠損金16億円のため、平成18年度は13億円が繰り越しされ、更なる改善が求められました。

検査に関わる診療報酬点数も出来高方式より包括方式、そしてDPCの導入と取り巻く環境は厳しく変化しています。

検査部門においても業務の見直し・経営改善・ICT・NST・糖尿病教室の参画など取り組んで来ましたが、更なる行動が求められています。

山梨県唯一の甲府病院はスキルアップによる新たな発見と他職種との情報交換を通じて新たな分野の出逢いを模索し、必要とされる検査科を今年も目指して行きたいと思えます。

§ 東京・埼玉地区技師長会会長

…………… 上 原 信 夫

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には初春のお慶びを申し上げます。

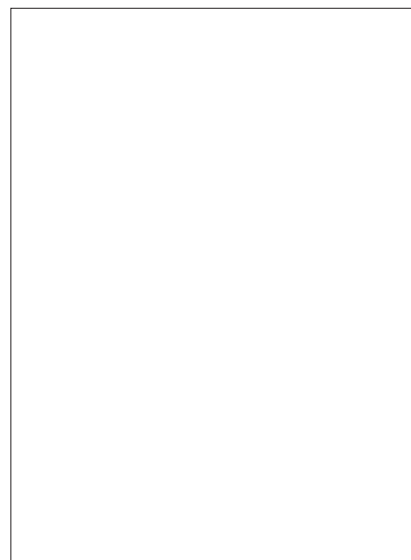
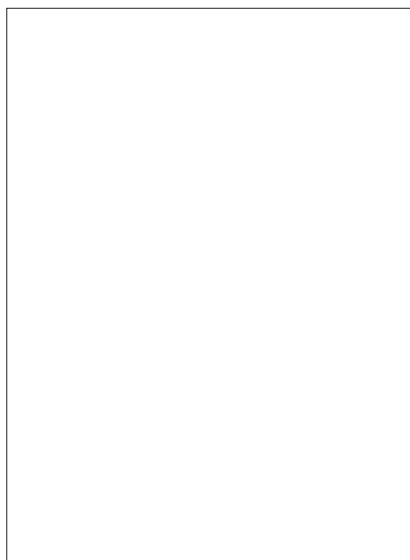
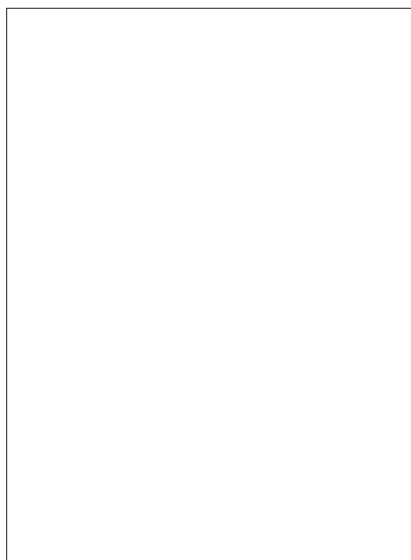
当会では梅雨明け間近の7月22日、国立成育医療センターにおいて技師長会議と研修会を開催しました。教育講演には遺伝子診療の第一人者である奥山虎之先生をお迎えして、「遺伝子医療と臨床検査の役割」をテーマに、シーケンス解析や遺伝子治療の最前線などをお話しして頂きました。

また、会議では、経費節減及び検査収入の確保や18年度診療報酬改定とその対策を主事項として、業務効率を徹底すること、収益力強化や検査の質向上に努めることなど話し合いました。

さて、年も改まった今、昨年の明るい話題に思いはせまずと国内スポーツ選手達の活躍ぶりが未だ脳裏に鮮明です。流行語大賞に選ばれた「イナバウアー」の荒川静香選手や"ハンカチ王子"こと早実の斎藤祐樹選手。殊に斎藤選手は15回を投げぬいた決勝戦を引き分け、翌日の再試合で好投を見せるなど大活躍でありました。すぐれた役者にはすぐれた舞台が用意されると言いますが、今年の六大学野球が楽しみです。

最後に、我々の医療現場に目を向けますと厳しい変革のさなかであるという印象を受けます。検査分野の技術革新（イノベーション）を成し遂げ、医療のなかで「進化し続ける臨床検査部門」であり続けるために、全力を尽くしていきましょう。

皆様の今年一年のご多幸と益々のスキルアップを祈念いたします。





新年の抱負

 NHO 栃木病院

麻 生 透

会員の皆様、新年おめでとうございます。今年は亥年で4度目の年男はすでに？年前に過ぎてしまいましたが原稿を書かせていただくことになりました。

さて、平成18年は当院検査科にとって大改造の年でした。7月に生化学免疫検査の分析装置及び検査部門システム等の更新、9月にオーダーリングシステムのスタートと、現在の検査科の状況から考えて大変ありがたいことが続きました。これを機に生化学血清・血液・輸血・一般検査部門を統合し検体検査部門としました。また外来患者の採血業務を全員による当番制とし、混雑状況によってはスタッフを増減して対応しています。

これら各部門の協力によって、オーダーリングシステムが稼動してからは結果の報告時間や採血の待ち時間が著しく短縮しさらにバーコードの採用により検査過誤の危険性が減少し、患者様や診療側へのサービス向上となりました。今後は検体検査部門のスタッフ全員が部門内の配置にとらわれず状況にあわせてセテシトできるよう研修を行い部門内の強化を図りたいと思います。

また病院機能評価を受審することになり、各部門ともマニュアル作りや部屋の整備に追われています。新システム稼動後間もないこともあって、マニュアル作りは業務の流れの確立や機器の操作法の再確認などに変役立ちました。今年度は、まず病院機能評価の受審に向けて全員が一丸となって準備し、同時にこれを有効に活用して各スタッフが業務を再確認し、また見直しを行うながら検査科全体をレベルアップしていきたいと思っています。

平成19年が会員の皆様にとって更なる躍進の年となりますよう祈念いたしまして稿を終わらせていただきます。

.

NHO 西群馬病院

小板橋 步

新年明けましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月より西群馬病院に採用となり、数年ぶりに実家のある群馬県での生活を送っています。自然豊かな所に病院があるため、雪が降ると車が登らないことがあるという話を聞いてから、あまり雪が降らないといいなあとと思っています。

病院スタッフを始め、多くの方々の指導もあり、無事に新年を迎えられたことを嬉しく思います。昨年一年を振り返ってみると、目標に向かって何か努力をしたというよりは、西群馬病院での業務に慣れるのに精一杯で、あっという間に日々が過ぎてしまったとの印象を受けました。業務にも慣れた今年は、資格取得に向けて努力をし、一年を振り返った時に仕事でもプライベートでも、「充実した一年だった」と思えるような年にしたいと思っています。そのために、今の状況に満足せず、日々向上心を持って業務に従事していきたいと思ひます。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もご指導のほど宜しくお願い致します。

 NHO千葉医療センター

鳥 海 洋

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様本年も宜しくお願い致します。

さて今年はどんな年になるか？期待と不安を抱きつつ、長いようで短い1年が始まりました。

昨年とても印象に残った言葉がありました。「ライオンに襲われた野ウサギが逃げ出す時に肉離れを起こしますか？要は準備が足りないのです」、「(略)～自分たちが歩むべき道を探していかなければならない。日常生活の中で平坦な道のりは

ない、上に上がって行くためには何らかの危険を冒し、何かを犠牲にしなければならない」。この言葉に聞き覚えのある方もいるかと思いますが、これはサッカー現日本代表監督のイビツァ・オシム氏が通訳を介して発したコメントです。これはサッカーを通じて人生を話されているのだと思います。自分が今まで何かを犠牲にしてまで本気でがんばったことがあったかどうかと考えさせられました。今の自分は仕事に対して準備が万全だろうか？毎日をのんきに緊張感無く過ごしてしまっていないだろうか？自分に対して「こんなもので良いや」なんて自分を納得させて逃げていないだろうか？など自分に問いかける良い切っ掛けとなりました。

切っ掛けはどんなことでも良い、自分は何がしたいのか、何をしなければいけないのか、でも考えるだけでは駄目！行動を起こさなければ何も始まらない。限られた時間を無駄にしたら後で後悔するだけ。こんな言葉を自分に言い聞かせながら今年1年、1日を無駄にしないように何かを成し遂げられたらと思います。

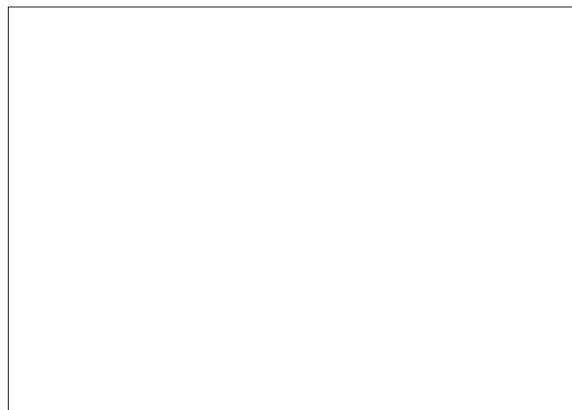
 NHO 相模原病院

竹内 豊

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様も新しい気持ちで新年をお迎えのことと存じます。昨年は、北朝鮮の核問題や北海道の竜巻など今までに想定していない事件・事故が発生した年でありました。また、スポーツの世界では、ワールドベースボールクラシックなどで、宿敵の韓国に予選リーグで2敗を喫し私達をひやひやさせました。しかし、決勝トーナメントでは韓国・アメリカを破り、苦しんだ日本チームが優勝致しました。私は、日本の野球が世界一になったことに感動と希望を与えてもらいました。それは、苦しんだ後には必ず良い結果が来る事を教えてくれました。私達を取り巻く医療現場は非常に厳しいのが現状であります。今は、トンネルの入り口なのか出口なのかまたは、真ん中か分かりませんがいずれは明るい出口が来るはずと信じています。

現在、私は生理検査に携わっています。中でも肺機能検査を主に行っています。肺機能検査は患者様に負担をかける検査なので嫌がられる事があります。そんな中、思いがけず患者様より感謝の言葉を頂きました。それは、気管支喘息で三年間も他の病院に通っていましたが改善されず当院を受診し数ヶ月で改善したことでした。思い返すと検査技師としてなくチーム医療のスタッフとして見ていたのかも知れません。今後は、自分の目標だけでなく、施設から求められていることを把握して少しでも実現する様に努力していきたいと思います。

最後に関信支部の皆様のご健康ご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



NHO 西新潟病院

渡 辺 靖

～認定臨床微生物検査技師になって～

明けましておめでとうございます。

個人的に昨年を振り返って見ますと、仕事の上での一番の出来事は、認定臨床微生物検査技師の資格を得たことです。認定技師試験を受験することで、微生物細菌検査技師としての自分のレベルがどの程度なのかを確認すべく試験にチャレンジしました。一応、受験勉強らしいことは行ったのですが、その過程で自分の知識の乏しさに何度愕然としたことか……。運よく合格は出来ましたが、結果的には、自分のレベルが決して高いものではないということを確認するためのチャレンジだった様に思えてなりません。資格を得てゴールしたのではなく、逆にスタートラインにやっと立ったという感じがしています。

新年の抱負というよりは、今後の抱負になってしましますが、認定微生物検査技師という立場をしっかりと受け止め、今まで以上の自己の研鑽、より良い検査データの提供、院内感染制御への積極的な参画、後進の指導などに認定技師の名に恥じぬ働きをしたいと考えています。まさに今年がその第一歩だと感じています。

話しは変わりますが、本年の干支、「亥」をちょっと調べてみました。「亥」は無病息災の象徴だそうです。「亥」という文字は「とぎす」という意味を持ち、草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表しているとのこと。今年の干支の如く、皆様が健康に過ごせますように。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

NHO 松本病院

土 井 誠 一

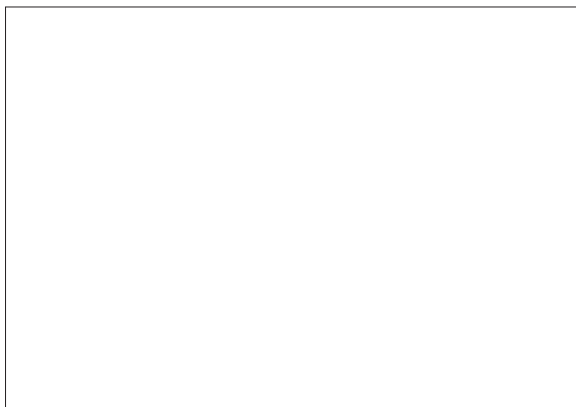
新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年はいじめによる自殺、幼児虐待など暗い事件などがありましたが、スポーツ界では松坂投手の大リーグ移籍という本人にとっては野球を始めてからの夢が現実に向かう一歩を踏み出しました。

新年を迎え本当に一週間一年が早く過ぎるような感じがする歳になり、また本来マイペースである私自身の環境の変化も早く感じるようになったと実感しています。6年前頃に「5年後、10年後の自分を考え1年の計画を立てなさい。」「これからは自分の意思とは関係なく物事が進んで行くぞ。」、とおっしゃっていた技師長の話あらためて思い出します。

昨年7月に松本病院に赴任し半年が過ぎますが、初めての業務と新しい環境であっという間に過ぎてしまいました。信州で新年を迎え寒いというより痛い（ホントですよ!!）という冬を経験し、生活にも不安だらけですが、今年からは5年後、10年後の自分をもう一度考え、一步一步進んで生きたいと思っています。

公私共に描いていることが現実になるように……。

最後に、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



NHO 甲府病院

吉 田 龍 矢

新年あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

新年の抱負を述べさせていただくにあたり私の紹介をさせていただきたく思います。私、吉田龍矢は国立病院機構甲府病院に平成17年4月に採用させていただき、以来細菌検査業務を主として携わってまいりました。甲府病院は山梨県内で国立病院として唯一の病院で、地区会といった活動はありません。そのためほかの病院の方々との交流を持つ機会が少ない状況です。そのような環境ですが、認定試験対策セミナーなどへの参加を通して、私と同じ細菌検査に携わっておられる先輩方と接する機会を頂くことができました。まだ一つの病院しか知らない私にとって貴重な出会いとなりました。まだまだ未熟な私を相手にしてくださった先輩方、本年もどうぞよろしくご指導をお願いいたします。

また甲信地区で年に一回行われるスポーツ大会でテニスの種目に参加しましたところ、仕事という枠外での出会いをすることができました。テニスは今後も続けていきたいスポーツと思っています。どうかまたお手合わせをよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構に採用になって3年目の年を迎えようとしています。今年は円熟の年と自分に言い聞かせ、細菌検査業務の知識をより深めると共に、他の分野の検査への興味も保ちつつ、臨床検査技師としてより成熟していきたいと考えています。

本年も皆様のあたかいご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。

◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇・◆・◇

国立がんセンター中央病院

蓮 尾 茂 幸

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。

原稿依頼を受けた際、あれっ、もう年男だっけ？とふと考えてしまいました。しかし、「干支によせて」は一昨年からなくなっていることに気づき、ホッとしました。

さて、昨今、超音波検査における臨床検査技師のニーズが高まってきております。これに対応するため、関東信越ブロック管内臨床検査技師腹部超音波検査実技研修が昨年2月から開催されております。当施設は研修施設となっており、現在、10名の方々が研修を終了しております。1ヶ月間という長期の研修であり、研修を担当する方も受ける方も初めての経験であり、当施設においても、手探りの状態での研修開始でした。

これまで研修された方の中にも、自分で思い描いた（満足）研修ができた方、できなかった方、様々だと思います。しかし、研修終了した方が超音波検査士認定試験に合格した知らせを耳にしたり、試験を受けるための相談があったりすると、微力ながらも貢献できたのかなと感じております。施設に戻った際には、研修の成果を生かしていただければ幸いです。

研修された方には、研修前、研修後に感じた事について簡単なアンケートを記載してもらっています。今後はこれらを参考にし、皆さんに満足していただける研修制度を当施設のスタッフと協力して作っていかねばと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

細胞検査士資格認定試験対策セミナーに参加して



NHO横浜医療センター

小林 真二

平成18年10月21日（土）NHO東京医療センターにて、国臨協関信支部主催の細胞検査士認定試験対策セミナーが開催されました。講師に都立大塚病院の浅見英一先生を迎え講義

して頂きました。

セミナーの内容は、まず始めの80分間で80問のスライド問題を解き、休憩の後、約90分間にわたり問題の解説をして頂くという内容でした。私自身、病理検査業務を本格的に行うようになってから間もなく、ルーチン業務を覚えることに日々格闘している身であり、認定試験を受験する段階に至っていないことから、今回のセミナーに参加するのはまだ早いと思っていました。しかし、昨年細胞検査士認定試験に合格した先輩から、出来るだけ多くの勉強会に参加した方が良いと誘いを受け、今回初めて参加させて頂きました。当然のことながら、スライド問題は全く正解することが出来ませんでした。数多くの症例を目にしたことと、浅見先生の丁寧で分かりやすい解説を聞いたことにより、今後認定試験受験に向けて勉強する上で、とても有意義なセミナーであったと思いました。また、これから受験する時はもちろんのこと、認定試験に合格した後も国臨協主催の勉強会をはじめ、様々な勉強会及び研修会に参加し、他施設の方々と知り合いになり、勉強や情報交換することも大切であると実感しました。

最後に、今回のセミナーで講義頂きました浅見先生ならびに、企画・運営をして頂きました関信支部役員の方々に深くお礼を申し上げます。



NHO霞ヶ浦医療センター

斉藤 広樹

平成18年10月21日（土）NHO東京医療センターにおいて、都立大塚病院の浅見英一先生を講師にお迎えし、細胞検査士認定試験にむけた対策セミナーが開催されました。

講義内容としては、分野別に婦人科20問、呼吸器科18問、体腔液8問、泌尿器科6問、消化器科10問、その他18問で計80問のスライドを1分間ずつ投影し各自解答する一次試験に沿った試験形式で行われました。その後、各スライド問題の解説および関連病変の説明がありました。また、試験対策としての必要事項や各分野における注意点、最近の傾向などを重点的に講演して頂きました。浅見先生の説明は大変分かり易くまとめられており、懇切丁寧なご教授でした。

資料としては、平成10年からのスライド試験の出題傾向をまとめたものを配布して頂き、受験者にとっては非常にありがたいものでした。

三浦支部長の挨拶で「この研修会に参加した人に幸福が訪れますように」というお言葉通りに、一次試験に合格することができました。現在は二次試験に向け勉強に励む毎日です。

最後に、この研修会を開催して下さい、国臨協関信支部役員の皆様、ご多忙の中ご講演下さった浅見先生に感謝いたします。



臨床検査技師長協議会関東信越支部より — 技 師 長 会 —

国立病院臨床検査技師長協議会
関東信越支部会長

NHO千葉東病院 杉 村 有 司



技師長会は、平成18年9月21日に京都市で開催された国立病院臨床検査技師長協議会総会で次の新役員が決まりました。この一年間を少ないメンバーで頑張りますのでご理解、

ご支援の程宜しくお願い致します。

会 長	杉村有司	(NHO千葉東病院)
副会長	小林和博	(国立精神・神経センター武蔵病院)
事務局長	原田正一	(国立療養所多磨全生園)
理 事	笹村 強	(NHO霞ヶ浦医療センター)
理 事	北原一司	(NHO下志津病院)
理 事	堀口日出子	(NHO水戸医療センター)
理 事	猪原玉富	(NHO東埼玉病院)
監 事	小泉良一	(NHO相模原病院)
監 事	原 和子	(NHO西群馬病院)

昨年、関信支部より「関信支部ニュース」に技師長会として何か記事を掲載してほしいとの依頼がありました。昔から関信支部は、若い人たちが活動的に力を出し合って作り上げていく伝統があります。技師長会のような年寄りは遠慮したほうが良いのではないかと一度はお断りしました。しかし、広告を減らし関信支部ニュースの内容を充実して行く構想がある事や、今後とも若い人たちの意見や考えを十分に反映するような紙面を作っていく事などをお聞きし、引き受けることにしました。

まず技師長会の説明を少ししましょう。「国立病院臨床検査技師長協議会」は北から北海道・東北・関信・東海北陸・近畿・中国・四国・九州の8支部があります。関信支部はその内の一支部ですが、関信支部の役員は国立病院臨床検査技師長協議会（本部）の役員も兼任します。

広報と渉外が主な活動です。広報は協議会では「会報」、関信支部では「臨床検査技師長会だより」を刊行しています。また「臨床検査技師長会ニュース」を月一回メールにより配信し、話題性のあるニュースを提供しています。渉外は厚労省、機構本部、ブロック事務所、院長協議会、事務長会などに提言活動を行っています。技師長会の今年度のテーマは、「ランチラボにできない検査科の仕組み作り」です。ランチラボの導入は、経費の節減を目的としています。ランチラボの導入が本当に経費節減になるのでしょうか。次回から4回のシリーズ「経営改善譚」でこの事を考えて行きます。

臨床検査科長会より 科長会での話題 — 昇任と転勤について —

NHO東京医療センター

研究検査科長 倉 持 茂

去る9月21日、京都医療センターにて国立高度専門医療センター・国立病院機構病院臨床（研究）検査科（部）長会（以下、科長会）合同会議が開催されました。お世話いただいた寺林忠研究検査科長、矢倉廣技師長に御礼申し上げます。懇親会と合わせて18名が参加しました。

科長会活動は必ずしも活発ではなく、事業を行ってもおりませんが、国立病院総合医学会の開催に合わせ合同会議を開いています。参加者は、病理医12名、臨床科の部（医）長で検査部長兼任者が5名、検体検査・輸血業務の専門医1名でした。規約改訂、役員交代なども議題でしたが、各施設の現状を報告し、情報交換に時間が割かれました。多くの科長が異口同音に言われたのは、技師の昇任が転勤とセットになっている現状への問題点の指摘または不満の表明でありました。以下はこの件に関する、現時点での私の個人的見解としてお読み下さい。

臨床検査技師を育てるのには手間も時間もかかり熱意も必要だということは、いまさらいうまでもなく、指導的な立場の主任技師以上の方は実感としてお持ちでしょう。

ものごとが決まり事として固まるにはそれなりの理由があつてのことですが、技師の昇任が必ず転勤とセットとなった理由は何でしょうか。国立病院機構にある施設では規模もさまざま、検査室の質を一定に保つために、人事交流を行うことで検査室の得手・不得手を補い合い、さらにそれぞれのレベルアップを図るというのが最初の意図のひとつだったでしょう。しかしこの方法を取るのが慣習になっているのとしたら落とし穴ではないでしょうか。

多くの分野にわたって指導者となれる程度の知識と技能をもつこと(a)と、特定の専門分野での高度の技術を身につけること(b)は両立するものでしょうか。不可能ではないかもしれないが、できれば検査技師としてけだし完璧といえるでしょう。完璧は得がたいとすれば、大部分のものは(a)か(b)か、どちらかの道を目指すのが現実的だと思います。(a)の方向は、たとえば言えば、個人の能力を分野別にレーダーチャートで示すなら、ひどく凹んだところも、とくに出っ張るところがないようにしながらだんだんに囲み込む面積を広くするというもの、(b)はとくに一方向だけがとがって、それ以外はある程度の大きさの図形で我慢するということでしょうか。(a)の方向はある年齢に達しても追い続けられますが、(b)の目指す真のスペシャリティーは、大まかにいって40歳まで、遅くとも40歳代前半程度までにしか獲得できないと私は思うのです。

要するに(b)の達成が見えてくるのは、主任に昇進するような時期とちょうど重なるころであり、技師を育て丹精した収穫、すなわち得意な技術を身につけた主任の力を、手間をかけたもの自身がしばらくは享受したいというのが検査科長としての本音のところだと思います。これが可能になれば、さらに技師の育て甲斐、育てる張り合いが出るものだと思います。主任昇格は必ず同一施設内でなどと制度を硬直化させることは避けなければなりません、今のやり方をかえることが、病院機構全体の技師の実力アップにつながるのには確かなことだと思うのです。職場が独立行政法人化した今では、しかるべき立場の方々にお考えいただきたいところです。私自身は(a)型の病理医だと生意気にも思っていますし、その方向で研鑽したいと思っています。

医療観察法病棟について

NHO久里浜アルコール症センター

塩 澤 勇 治

今回、医療観察法病棟について述べる機会を与えられたので、総論的な話題と検査の状況を述べたいと思います。

この病棟は「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」に基づいて指定医療機関が定められています。法律の目的は、「重大な他害行為を行った者が、適切な医療並びに観察及び指導を行うことによって、病状の改善や再発の防止を図り、円滑に社会復帰する事ができるように努めること」とされています。他害行為が発生し、心神喪失等を理由に検察官が不起訴、または裁判官が無罪等とした場合、検察官申立てによって2ヶ月間以内の鑑定入院となります。その結果を踏まえて裁判所における審判が実施され、医療観察法の適用となった場合、入院または通院治療となります。

国は、精神専門病院の14か所に病棟を整備することになっています。関信ブロックでは当院のほか、精神・神経センター武蔵病院、さいがた病院、小諸高原病院、下総精神センターが該当します。対象者は300人、700床程度と想定しているようです。病棟の構造や運営は一般病棟とは異なり、無断退出や外部からの違法な接触等を防止するために閉鎖病棟となります。また、フェンスやモニターの設置、警備員の巡回などもあります。居室は個室となっておりトイレ、シャワー設備なども備えられています。病棟を運営するためには、地域の理解・協力が必須であり、周辺住民の意見を聴く恒常的な窓口の設置や地域連絡会議、無断退去マニュアルなどがあります。さらに、医療の質確保のため、外部評価会議、倫理会議、処遇や治療の評価会議などが定期的に開催されます。

入院は、基本的には対象者の地元以最に近い施設とされます。18ヶ月以内の入院を想定して、症状に応じたプログラムに基づいて治療がされ、急性期、回復期、社会復帰期と移行し、最終的には外来通院となります。外来では3年間（最大5年間）の観察を原則としています。この間の費用（検査料なども含めて）は国から支払われます。病棟を運営する上で医師や看護師、臨床心理士など多くの人員が必要となります。特に看護師確保が最大の課題です。

当院では、平成18年4月から15床病棟の運営を開始しましたが、入院者が順調に確保され8月には満床となりました。検査は通常の生化学検査、血液検査などですが少数です。個人情報外部に漏れないように配慮し、検査システムに入っている検査結果は外部からは閲覧できないようになっています。また、依頼伝票の控えや報告書もすべて病棟に返却しています。心電図検査は病棟出張し、脳波検査の時は入院者に職員が付き添い、検査室で実施しています。

以上、医療観察法病棟について簡単に報告しました。

専門職の
ひとりごと

その1.

「関信支部学会について」

コラム

NHO関東信越ブロック事務所

臨床検査専門職 奥 田 勲

関信支部会員の皆さんとの交流をより深めたいとの思いから、今回より関信支部ニュースに「専門職のひとり言」というコーナーを作っていただき、常日頃私が感じていることを思いつくままにお伝えしてみたいと思います。

そこで1回目の今回は、「関信支部学会」について・・・です。

まず、私たち会員にとって「関信支部学会」とはいったいどんな存在なのでしょう？ もちろん人それぞれに違うとは思いますが・・・。

「なぜこのような問いかけをするのか」というと、最近みていると、関信支部学会に対して「したい時に参加すればいい」、「興味のある演題発表だけ聴けばあとは関係ない」、「支部学会より専門学会の方が大切」といった考えの人が以前にも増して多くなったのでは、と感じているからです。

確かに、学会というものは本来自己研鑽の場でありその参加は自由ですから、それはそれで問題ないのでしょうか。しかし関信支部学会って、「本当にそれで良いのかな？でもそれだけでは少し寂しいかな？」との思いを抱くのは私だけでしょうか。

なぜなら、私たち関東甲信越地区の国立医療機関に勤務する臨床検査技師にとって、関信支部学会は自らの組織で運営する「特別な意味合いをもつ学会」だと考えるからです。

ですから私は、関信支部学会を大切にすることは、自分たちの組織を大切にすること、さらに言えばそれは自分自身を大切にすることと同じことではないかと思っています。そこでどうでしょう！ これからは、「自らが育てる、そしてみんなで育てる」との一致した想いで、あらためて関信支部学会へ積極的に参加していきませんか。是非ともみんなの心をつなげて、会員の8割9割が参加するのが当たり前という、さらにグレードアップした「関信支部学会」へと進化させましょう。

ちなみに、関信支部学会は演題発表だけではありません。私たちの組織母体である「国臨協関信支部総会」への参加もお忘れなく・・・。

事務局からのお知らせ

昨年は、会費納入および会員調査においてメールによる早急な対応をとって頂き、誠に有難うございました。

関信支部では、今後も調査やご案内など多くの情報を事務局総務（kansinof@m18.alpha-net.ne.jp）よりメールにて配信してまいります。皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、支部に対する質問や要望につきましては事務局長の松林（mmatsuba@wakho.hosp.go.jp）が対応させていただきます。併せてお願い申し上げます。

お知らせ（学術部より）

▶ 第 3 回 関 信 支 部 主 催 研 修 会 （超音波検査士資格認定試験対策セミナー）

日時：平成19年 1 月13日（土）13：00～

場所：国立がんセンター中央病院管理棟 5 階第 5 会議室

講師：斎藤 雅博 先生（持田シーメンスメディカルシステム）

内容：超音波検査士認定試験対策

※現在勉強中の方、興味のある方、また、もう一度復習したいという方など多数ご参加下さい。

▶ 第 4 回 関 信 支 部 主 催 セ ミ ナ ー （糖尿病療養指導士・治験コーディネーター）

日時：平成19年 2 月10日（土）13：00～

場所：国立国際医療センター 5 階大会議室

講師：佐藤 成彦 先生（NHO横浜医療センター）

和田 裕美 先生（国立国際医療センター）

内容：佐藤先生に糖尿病療養指導士について、和田先生に治験コーディネーターについてお話していただきます。

※今回 2 部構成でセミナーを開催します。それぞれ認定資格を取得したい方、興味のある方など多数ご参加下さい。

▶ 症例検討会の症例公募

症例検討会の症例呈示施設を公募します。

平成19年 5 月に症例検討会を予定しています。症例を呈示していただける施設は下記へご連絡下さい。

尚、症例は発表、未発表は問いません。また、ジャンル等も一切問いません。

応募の締め切りは平成19年 2 月 9 日（金）とさせていただきます。

連絡先 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

国立成育医療センター 臨床検査部

学術担当理事 小松 久人 宛

TEL 03-5494-7868

E-mail komatsu-h@ncchd.go.jp

人 / 事 / 異 / 動

【平成18年11月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
高 橋 文 香	国際医療	技師(採用)	精・神センター武蔵	技師(非常勤)

【平成18年10月31日付 退職・辞職者】

氏 名	施設名	役職名
柿 島 寿 子	国際医療	技 師 辞 職

編集後記

新年あけましておめでとうございます。新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。

昨年、政治経済は小泉内閣から安倍内閣へ、北朝鮮問題（核兵器、拉致）などがありました。

スポーツでは、王監督ひきいる日本チームWBC優勝、荒川静香さんトリノオリンピック、フィギュアスケートで金メダルと明るいニュースがありました。

会員の皆様にとって明るく、良い年でありますよう、またご活躍を心より申し上げます。（記：広報部）

地 区 会 便 り

▶新潟地区

平成17年度(第26回)国臨協関信支部 新潟地区会定期総会・学術講演会を終えて

NHO新潟病院 渡部 弘美

平成18年10月28日(土)、新潟病院大会議室に於いて平成17年度国臨協関信支部新潟地区会定期総会を開催しました。晴渡る秋空のもと研修会講師として奥田勲臨床検査専門職、関信支部より三浦隆雄支部長、益田泰蔵理事をお招きし、ほぼ全員の参加を得て行われました。

速やかな進行で執り行われた総会につづき、今年度の祝事に地区会から心ばかりの品を贈呈するセレモニーを行いました。退官される新潟病院の阿部主任、第34回関信支部学会特別優秀賞に輝いた西新潟中央病院の平原技師、同じく元さいがた病院、現松本病院の富山技師、第60回総合医学会ベストポスター賞を受賞したさいがた病院の水島主任おめでとうございます。

地区会研修会、第一部では奥田専門職から『専門職からの連絡・指導事項』と題したお話をいただきました。「こんな時代だからこそ上昇のチャンスがあり、各部署でやるべきことは沢山あるはずですよ」と検査技師魂が奮い立たせられるお話でした。第二部では新潟県赤十字血液センターの認定検査技師でMRの松山先生から『輸血療法の適正化・効率化に臨床検査技師の果たす役割』と題して、充実した資料を基に今できる具体的な技師の役割をお話いただきました。

そのあと、日本海に沈む夕日が眺望できる「ザ・ホテル・シーポート」で親睦を深め、大盛況のもと総会、研修会を閉幕しました。

平成18年度 新潟地区会役員名簿

会 長	中島 治	(新潟病院)
副会長	目崎 和久	(西新潟病院)
理 事	岩間 裕子	(新潟病院)
理 事	平原 博美	(さいがた病院)



▶長野地区

「長野地区総会を終えて」

NHO中信松本病院 竹ノ内 一 雅

平成18年10月21日(土) NHO中信松本病院の第一会議室において、平成17年度国臨協関信支部長野地区総会・研修会が開催されました。また、当日は関信支部より、太田副支部長、松林事務局長のご出席を頂きました。

研修会では特別講演として「医薬品の開発・治験と臨床検査」と題して日本イーライリリー(株)臨床開発部の小林正和先生に講演していただきました。新薬開発の経緯やその過程で臨床検査がどのように関わっているのか、また、治験において、製薬会社と病院のそれぞれのメリット・デメリットをわかりやすく説明していただき大変勉強になりました。

特別講演終了後、長野地区総会が行われました。会長代理(副会長)挨拶、来賓挨拶、平成17年度の経過報告、会計報告、会計監査、平成18年度事業計画案、予算案、新役員選出が行われ、特に平成18年度事業方針についての活発な討論がなされました。

総会後「民芸旅館 深志荘」にて懇親会を行い、会員相互の交流を深めることができ、長野地区総会を終了しました。

平成18年度 長野地区会役員名簿

会 長	若林 洋志	(東長野病院)
副会長	原田 哲志	(小諸高原病院)
庶 務	古田 学	(松本病院)
会 計	山邊 ゆかり	(長野病院)
広 報	竹ノ内 一雅	(中信松本病院)

